

編集委員 雨宮処凛・石坂 啓・宇都宮健児・落合恵子・佐高 信・田中優子・中島岳志・本多勝一

週刊金曜日

2010 3 | 19 791号
毎週金曜日発売 定価 500円

森達也・責任編集「地下鉄サリン15年」
始まりとしてのオウム



森達也・責任編集 地下鉄サリン15年

始まりとしてのオウム

森 達也 16

権力と民衆が寄りそい、刑事司法は殺された
「麻原死刑囚・再審弁護人」松井武氏に聞く 18

私たちはなぜ、信者たちの死刑回避を求めるのか
「オウム真理教家族の会」永岡夫妻に聞く 20

社会が変わらなければ「オウムのなもの」が出てくる
ひかりの輪代表・上祐史浩氏に聞く 22

立入検査権限に続き、次は破防法「改悪」
オウムで延命した公安調査庁 青木 理 24

「核密約」の幕引きを許してはならない 新原昭治 14

「9・11」当日からの数々の謎と疑惑 山崎淑子 28

私たちが「消し去る人々」 ボルネオ島の移動狩猟民 写真・文 峠 隆一 30

日本が排外感情に陥らず 保守すべき伝統とはなにか 対談 東郷和彦・中島岳志 48

編集長連続インタビュー 第14回
森川すいめいさん ホームレス問題は自分たちの問題 52

「早く仕事に復帰したい」
阪急トラベルサポートと闘う塩田卓嗣さん 片岡伸行 55

きんようぶんか

【読書】「逆に14歳」陣野俊史 37 / 「原子力都市」五所純子 38 / 編集部が選ぶ3冊 38

【読み方注意!】「週刊現代」北原みのり 39

【映華館】「やさしい嘘と贈り物」海南友子 40 / 【音楽館】近藤康太郎 40

【観客席】境分万純 41 / 【案内板・非マスコミ紙誌】 42

生活情報ページ 暮らし・くらし・KURASHI

プロが教える損しない保険の入り方 ⑩ 共済に学べ! 後田 亨 33

初心者のための税金講座 ② 税率 浦野広明 34

新・買ってはいけない ⑩ 花王 / アタックNeo 渡辺雄二 36

風速計
神待ち少女

雨宮処凛 9

話の特集 第328集

無名人語録……………永 六輔 44
リブらんか……………中山千夏 44
ほんの数行……………和田 誠 46
東京の横丁……………矢吹申彦 47
発言2010……………矢崎泰久 47

政治時評 佐倉 奏 11
経済私考 竹信三恵子 27
国会学習帳② よこくめ勝仁 26
貧困なる精神 ④ 本多勝一 43

疑モンモン ⑤ 2
金曜アンテナ 4
国際ニュース 12
メディア一撃 56
こんなこと、やっています 61
読者会から / 市民運動案内板 64
金曜日から 66
佐高信の「現代を読む」⑤ 67
「サーカス村裏通り」

投書 60
自民党の予算審議……………長谷部晃
もっと生きていたかった!……………勝田洋子
「慰安婦」裁判が終わった……………大谷猛夫
連休ずらし観光後押し……………釘宮 崇
「金曜日」の報道に拍手……………堀本秀生
暴力行使の西成署の自白、
尊厳を取り戻す闘い……………早瀬成子
今世終わりの川柳として……………佐藤博之
職業肩書きに異議あり……………西森伸幸

論争 63
前田日明さんへの苦言……………宋 仁 浩

現場跡地を
目撃した
山崎淑子氏に聞く
聞き手／成澤宗男・編集部

「9・11」当日からの 数々の謎と疑惑

いまだ多くの謎に包まれている「9・11」事件。
全世界の目を引きつけたニューヨークのツインタワー「崩壊」後、
現場の一部始終を見届けた邦人の証言は、
「9・11」が単純な「テロ」事件ではない可能性をうかがわせる。

——二〇〇一年の「9・11」事件当時、
ニューヨーク・マンハッタンが崩壊した世界貿易センター（WTC）ビルのすぐ近くにオフィスをお持ちだったことですが。

WTCに隣接するバッテリー・パーク・シティという地区のビルで、当時立ち上げた事業のためオフィスを九月六日に仮契約しました。カギも渡され、当日から部屋の壁塗りや荷物の搬入を始めました。一日正午に、本契約する予定でした。住んでいたのは、WTCとは離れたセントラル・パークの近くでした。

——事件当日は何を。

朝、犬を病院に連れて行くため歩いていて、WTCとかなり離れたセントラル・パークのカフェに寄った人々が黒山になってラジオを聞いているのです。耳を傾けたら、もう「第二のパールハーバーだ」とか「カミカゼだ」と放送していました。今から思えば一機目の激突直後だと思

うのですが、本来なら何も状況もつかめないような段階でなぜあのような放送が流れていたのか不思議です。

——二機目の飛行機がビルに追突する場面を目撃されましたか。

見ていません。すぐ自宅に帰ってテレビにかじりつきましたが、そこでも後で振り返ると不思議に思えることがいくつもありました。まず、テレビでも当日から事前にプレスリリースされていたかのように「テロリスト・アタック」という用語がほとんど流れていたのです。何もわからない段階のはずなのに。

——ほかには。

当日、第一ビルに最初の飛行機が激突するシーンが流れていたのですが、すぐオンエアされなくなりました。このシーンは、フランス人の兄弟がニューヨーク市の消防士の活動を映像に収めていた際に「偶然」画面に入ったとされ、後になって公開されました。現在でも一機目の激突

シーンはこの映像しかないはずですが、当日は、超望遠レンズで、北側から一機目の激突の瞬間を撮った映像がオンエアされていました。

「これは爆破解体だ」

——奇怪ですね。てっきりフランス人兄弟が撮った映像しかないと思っていましたか。

本当にできるだけビデオに撮っておけばよかったのですが、似たような例はまだあるのです。消防士たちのインタビューがたたくさん生中継で出てくるのですが、多くが「ボンボンという爆破音を聞いた」と話していました。ですからニュースを見れば、「ビルで爆発があったのだな」と誰も思ったでしょうね。アナウンサーも「これは爆破解体だ」と叫んでいました。ところが、すぐにこうした場面もなぜか二日目からほとんど消えていきました。

いまでこそ「ビル内部で爆破があ

った」と言うと、日本では「陰謀論」扱いされますが、当日は全米の多くの人々がその事実をニュースで知らされたはずですが、ところが、あれだけの大事件なのにそうした映像が現在ではほとんど入手できません。逆に毎年「9・11」の記念日にテレビで繰り返し流されるのは、政府に都合のいいシーンばかりです。

——WTCのツインタワーは単に激突に伴う火災で崩壊したのかどうか疑問に持たれており、多くの消防士の「爆破音を聞いた」という証言は貴重です。しかし、事件の「公式発表」からも完全に抹殺されましたね。オフィスに戻られたのはいつですか。

——一帯はセキユリティ・チェックがあったのですが、仮契約書を見せれば二〇日から入れるようになりました。そこでツインタワーの跡地を観察しながら写真を撮り、さらに路上や部屋の中の細かなパウダー状の粉塵を集めて保存しました。私は阪神大震災を経験し、アスベストの被害に敏感になっていたので、後で調べる材料にする目的でした。三〇日か



らビルの屋上にも上がれるようになって、そこから写真を撮りました。

—— ツインタワーと第七ビルの跡地に、なぜか数週間の長期にわたって溶解した灼熱の金属が滞留していたという証言と写真が残されています。

目撃はしていませんが、二〇日の段階では残骸現場から爆発音や「ゴ—ゴ—」というような音が聞こえていました。しかも白煙が上がっていて、そこに放水をしている。現場で作業をしていた何人かの消防士に理由を聞いたら、「中でまだ燃えているんだ。熱くてとても近づけない」「爆発が続いている」と答えてくれました。放水は、一月の後半でも続いていましたね。しかも一帯は、何かが燃えているような塩素系殺菌剤のような臭気が蔓延していましたから、地下で燃焼があったのは確かでしょうね。

—— なぜ崩壊後、金属が溶解するほどの高熱が基底部で長期にわたり持続していたのか、「9・11」の大きな謎の一つです。最近になって米国の学者が現場の粉塵から特殊な爆薬を検出し、それが残った金属の溶解を説明していると主張していますね。

私が採集した粉塵も分析すれば、役に立ったかもしれません。ところが日本で入院中の翌年九月に、ニューヨークの自宅から現場の写真や映像、粉塵のサンプルと共に私物一切がFBIなどの捜査機関によって持

ち去られてしまいました。容疑は、まったく身に覚えのない「9・11の被災を偽った支援金の詐欺未遂・共謀」です。○五年七月には「逃亡犯罪人引渡法」で東京拘置所に拘禁された後、一〇月に米国へ強制送還され、ニューヨーク拘置所に約一年の未決勾留後、有罪判決が下って六カ月前半、ダンベリーの連邦刑務所に入られました。

日本で「共謀」?

—— しかも起訴状によれば、私が第三者と米国で「共謀」したとされる二〇〇一年一〇月三十一日は日本にい

やまさき・としこ 1984年から2007年まで、ニューヨーク在住。ニューヨーク外国特派員協会メンバーとして出版・編集に携わる。01年に事業を起こすが、「9・11」事件で中断。活動の場を日本に移すも、05年7月に「逃亡犯罪人引渡法」で東京拘置所に勾留。10月、ニューヨークの拘置所に「9・11の被災を偽った詐欺未遂・共謀罪」容疑で強制送還される。刑務所服役後、帰国。冤罪の名誉回復のため雪冤活動中。写真/オフィスからWTC跡地を見る山崎氏。(本人提供)

て、都内で「9・11報道に関する疑惑 現場の目撃証言」をテーマに講演しているのです。そこではニューヨークから持参したファイル三冊分の写真を参加者に回覧してもらいながら、アフガニスタンへの軍事侵攻反対を訴えました。

—— 完全な冤罪ですね。

拘置所に入ったとき、職員が話しかけてきたのですが、「9・11の関連なら、ものすごい重罪が待っているよ」「この前も現場から石ころを拾った警官が、『犯罪現場から証拠を持ち帰った』という罪で長くここにいたさ」と言う。そこで、日本での講演の日が「犯罪」の「共謀」の日とされたのは、私も「9・11の関連」ではないかと気がついたので。なにしろ、「容疑」に何の関係もないツインタワー跡地の写真や粉塵のサンプルが、ごっそり押収されたのですから。おそらく、政府にとって好ましくないような「9・11の関連」証拠が含まれていたのでしょう。

—— 政府は何か隠そうとしていると。

そもそも米国とは、厳罰主義の国です。特に軍隊は、ささいなミスでも容赦されません。それで事件後、多くの裁判が始まると思っていました。空軍は全部、「ハイジャック」されたという旅客機のスクランブルに失敗していますし、報道通りならラムズフェルド国防長官(当時)も、諜報機関の責任者も処罰されるはず

ツインタワー跡地で作業をする消防士たち。残骸は、なぜか検証されないうまみサイクルされた。(提供/AP・AFLO)

ですから。でも、誰一人責任を問われた政府関係者はいません。本当に、米国は「被害者」なのかと疑ってしまいます。

—— 裁判どころか、逆に軍の高官は出世していますからね。

しかも、オフィスのビル屋上から毎日観察していると、現場から鉄などの残骸が区分けされ、トラックで運び出されていく。そこで、「どこに持っていくのか」と気になって丹念に新聞やインターネットで調べたのですが、一旦ニュージャージーの港湾のヤードに集められた後、鉄工所で溶かしてリサイクルされ、中国などに輸出されたという。本来なら事件現場の検証のため、保存されるはずなのに。私は現在、冤罪防止と救出のための立法制定を求める活動準備をしています。同時に現場の証言者として、こうした「9・11」に関連する疑惑追及に役立てたらと思っています。

